

入選

小さな親切

静岡県 静岡サレジオ中学校

1年 増田奈々緒

「お姉ちゃん、ありがとう。」

ペコリとお辞儀をして去っていったその子を見て、私は嬉しくなりました。

先日、私が100円ショップに行くと、小さな女の子が1人で折り紙コーナーにいました。女の子は、上の方にある折り紙を取ろうとしているのか、がんばって背伸びをして、ときどきジャンプをしていました。私はその様子を見て、少し恥ずかしかったけれど、思いきってその子に、

「取りましようか？」

と声をかけました。すると女の子は、少し驚いた顔をして、その後こくりと頷きました。

私が手を伸ばし、折り紙を1つとって「これが欲しいの？」と聞くと、「かわいい折り紙が欲しいけど、見えないの。」とその子は言いました。それを聞いて私は、上の方にあった折り紙を1種類ずつすべて手に取って、「ここに気に入ったのあるかな？」とその子に折り紙を見せました。

その子はじっくりと見た後に、「これ、かわいい。これにする。」と言って、星柄の折り紙を取りました。私が、残った折り紙をもとの場所に戻そうとしたとき、

「お姉ちゃん、ありがとう。」

と笑顔でペコリとお辞儀をして、その場から小走りで去っていきました。嬉しそうな女の子の笑顔を見られて、私も嬉しくなりました。そして昔、母と話したことを思い出しました。

私の母は優しい人で、困っていそうな人がいたらすぐに声をかけています。当時、私は母に、

「どうしてみんなに親切なの？知らない人に声をかけるの、恥ずかしくないの？」

と、気になって聞いてみたことがあります。すると母は、

「困っている人に声をかけえるのは、当たり前なことだよ。」

と言って、それに、と話を続けました。

「それに、誰かを助けたらその人もまた、別の誰かを助けてくれるかもしれない。それが続いていって、もし奈々緒が困っているときに、誰かが助けてくれるかもしれないでしょ。」

と笑顔で言う母をすごいな、と思いました。

今回私は、少しの勇気を出して女の子を笑顔にすることができました。まだ少し緊張することもあるけれど、母の言葉を胸に、困っている人に当たり前にかける人になりたいです。

そして、私が優しくした人が周りの人にも優しくして、その人がまた次の人に……、と繋がって行って、いつかみんながみんなに優しくできるようになるといいな、と思います。

そのためにも、まずは自分から一歩勇気を出してがんばりたいです。